

令和7年度 前田記念工学振興財団 地域工学シンポジウム 開催報告

2026年3月6日(金)、前田記念工学振興財団は「地域工学シンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムは、当財団の研究助成事業地域工学分野が掲げる

「地域同士の緩やかなネットワークづくり」の実現を目指した新たな試みです。

記念すべき第1回目となった今回は、令和7年度の採択者や共同研究者、関係者ら47名が参集しました。

プログラムでは、主催・共催者による挨拶や基調講演に続き、採択研究者が中間発表を行い、

現在進行中の研究内容や知見が共有されました。

その後の懇親会では、異なる地域で多様な課題に向き合う研究者たちが一堂に会し、

組織や専門領域の枠を超えた活発な意見交換が行われました。

当財団は今後も本シンポジウムを通じて、地域工学分野における研究者支援と、

持続可能な地域社会を支えるネットワークの構築に寄与してまいります。



主催挨拶

前田記念工学振興財団では、これまで土木・建築等の工学分野への研究助成事業を継続的に
行ってまいりました。そして、令和7年度より、新たな取り組みとして「地域工学」分野への助成を
開始しました。

私自身は土木・社会基盤の研究者ですが、本務の東京大学 生産技術研究所の設立70周年事業に
所長として携わった際、糸川英夫先生のロケット研究が各地域と連携しながら展開された歴史に
触れて、地域と工学をつなぐ重要性を実感しました。

その際の自治体との連携やコンソーシアムづくりの経験を踏まえ、当財団での地域工学分野の
研究助成事業を開始した次第です。

まだ試行錯誤の段階ではありますが、今後のさらなる発展に向けて、本日のシンポジウムが実り
多い場になることを期待しております。



前田記念工学振興財団
岸 利治 理事長

共催挨拶



東京大学生産技術研究所
年吉 洋 所長

前田記念工学振興財団による第1回地域工学シンポジウムの開催、誠におめでとうございます。
東京大学生産技術研究所(生研)は教員約120名、研究者や学生、職員を含めると約2500人規模の、
日本最大級の工学系附置研究所で、量子レベルから地球・宇宙規模まで、ほぼすべての工学分野
をカバーしています。

応用物理、機械、精密、電気電子、情報、化学、環境、建築、それから社会インフラと、ほぼ
ないものはありません。

今回の地域工学の研究テーマを拝見すると、防災、医療、農業、観光など、生研の複合領域研究
と親和性が非常に高いと感じました。

本日のシンポジウムをきっかけに、皆さんが緩やかにつながり、新たな研究へ展開されることを
期待しております。



基調講演

私は大学の外では建築家として活動し、東大の新しい図書館やインド工科大学の中央図書館などの設計に携わってきました。設計で常に考えているのは、光がどのように空間をつくるのか、そしてその土地ならではの雰囲気や記憶といった「場所性」をどう建築として翻訳するかという点です。ただし、建築は建物単体で完結するものではありません。

戦後の日本では、役所や美術館、博物館といった建築が、市民社会を立ち上げる装置として各地につくられてきました。

何もなかったところにどんな空間をつくれれば人が集い、社会が動き出すのかを試行錯誤してきたのが建築の役割だと思います。

一方で近年、地方をめぐる議論は経済や観光に偏りがちですが、2000年代以降の急激な人口減少や東日本大震災を経て、本当は社会の仕組みそのものを作り直す段階にあります。その問題意識から、和歌山・加太では地域に常駐し、住民と一緒に活動を続けてきましたし、現在は福井・東尋坊で、自然環境の保全から動線や広場づくり、滞在体験の編集まで、ハードとソフトを一体で再構築しています。建築だけで地域は変わらないからこそ、他分野や行政と連携し、必ず形ある成果を残すことが重要です。地域とは単なるローカルではなく、特定の時間と空間を生きる人々の物語であり、それを統合する視点こそが地域工学に求められているのだと思います。



東京大学生産技術研究所
川添 善行 准教授



会場・発表・質疑応答の様子





中間発表一覧

No.	発表者	所属	研究課題	コース
01	牛木 彩子	国際医療福祉大学	傾斜地における高齢者の身体能力と行動範囲の研究 - 熱海市においての転倒予防パンフレットとワークショップ	研究実装
02	入江 光輝	宮崎大学	中学生がつなぐ気候変動に対応した宮崎県五ヶ瀬川の流域治水	研究実装
03	鈴木 素之	山口大学	災害復旧・復興期における複合災害の発生に対応した防災福祉コミュニティの創成: 令和6年能登半島地震とその後の豪雨災害を踏まえて	研究開発
04	廣石 秀造	日本大学	自伐型林業における伐採材の建築的活用に関する研究	研究開発
05	福林 良典	宮崎大学	日南層群における道路土工の設計施工ガイドライン作成に向けた事例研究	研究実装
06	五三 裕太	九州大学	福岡県柳川市における水門を活用したローカル・インフラツーリズムの開発 —地域主導による総合的な水環境管理・活用に向けて	研究開発
07	林 倫子	関西大学	防災まちづくりへの応用を目指した滋賀県水害履歴調査	研究実装
08	平尾 しえな	東京科学大学	里山フェムテック —道具からみる農的活動への女性参加の可能性—	研究開発
09	銭 健一 (代表研究者: 渡邊 大志)	早稲田大学	「むらやし」研究-特産品「むらやしプロダクト」の開発による、 地域の自律的運営方法の検証に関する実践的研究-	研究開発
10	陳 建中	畿央大学	住居近傍における「屋外居場所」の創出および空間装置の在り方	研究開発

シンポジウム開催概要

日時	▶ 2026年3月6日(金)15時半～18時
会場	▶ 東京大学生産技術研究所 S棟プレゼンテーションルーム
参加人数	▶ 47名
参加者属性	▶ 令和7年度地域工学研究助成分野採択者(10名)／共同研究者等(17名) 財団役員・選考委員・関係者(10名)／東大生研関係者(10名)
主催	▶ 公益財団法人前田記念工学振興財団
共催	▶ 東京大学生産技術研究所

次回シンポジウム(予定)

日時 ▶ 2027年3月5日(金)
会場 ▶ 東京大学 生産技術研究所